ザ・ベルベット・ハウス
「みんなのためのクィアフェミニストカフェ」
セクマイ全国大会2024年パネルセッション　テキスト

0
こんばんは。
兵庫県川西市で『ザ・ベルベット・ハウス』というクィア・フェミニスト カフェを経営している久木田依子（くきたよりこ）と申します。クィアでフェミニストです。
現在３１歳で、夫と3歳の娘と暮らしています。の子育てをしながらお店をやっています。

今日は都心から離れた郊外の住宅地でカフェという空間を通して、なぜ、どのようにLGBTQ+とフェミニストたちの居場所作りを行っているかについてお話ししていきたいと思います。
ここからはザ・ベルベット・ハウスを短く、わかりやすいようにベルハと呼んでいきます。

1
はじめにお店について紹介させていただきます。
ベルハは2023年の4月にオープンしました。
場所は大阪梅田駅から20~30分で行ける阪急川西能勢口駅から徒歩3分くらいの裏路地にあります。
カウンター４席のみの小さなお店で、コーヒー、紅茶、自家製ケーキなどを出しています。
営業日時は短く、週２日の金土11時から16時までです。

店内は落ち着いた照明とヴィンテージテイストなインテリアでまとめています。居心地のいい隠れ家的な雰囲気を目指しています。音楽はジャズを流していることが多いです。
カウンター席のみなので、来店されたお客さんは、私か他のお客さまと会話をする方がほとんどです。ひとりで静かに読書をする方もいます。
どんなお客さんがいらっしゃるかと言うと、LGBTQ当事者の方、フェミニズムに興味のある方、その他に、近隣にお住まいの方などがいます。
開店してからずっとインスタグラムでお店のことを発信しているのですが、ケーキを目的に来る方がいたり、セクマイやフェミニズムの話をしにくる方など、来店目的は様々です。

2
ベルハがある川西は、大阪の都心部から１時間以内にある郊外住宅地です。
自然が豊かで、最寄りの川西能勢口駅には百貨店や商業施設もあり、子育て中のご家族が多く暮らしています。
最近では新たに小さな個人店もポツポツと増えつつあります。
ですが、大阪や神戸など、都会と違ってLGBTQが安心して過ごせる空間や交流できる場所が少ないと感じていました。
私自身、川西に引っ越してきて、まだ四年しか経っていません。縁もゆかりもない土地に移住し、コロナ禍で妊娠出産を経て、新しく人と出逢う機会があまりなかったことをきっかけに、まず最初に自分の居場所とコミュニティー作りを目的として、店を作ることにしました。

3

新しい繋がりを求めた時、皆さんはどういう手段を取っているでしょうか？
考えられる選択肢は、イベントや趣味の会に参加する、知り合いの知り合いを紹介してもらう、バーやスナックなどお酒の場に行く、クラブやパーティーに行く、外出しないのならSNSや出会い系アプリ、ネットの掲示板などで探す。
LGBTQの当事者が安心して出逢える場所をいずれにせよ現在の日本ではまだハードルが高く感じます。特に障害や精神疾患を持っていると尚更選択肢は少なくなります。

私自身、鬱とパニック障害、自律神経失調症などでよく体調を崩します。それに未就学児の子育てがあると、夜の外出や遠出は中々難しいものです。
それなら自分が住んでいるこの町に、クィアとしてフェミニストとしての居場所を作らなければ！と、個人的な必要からベルハが生まれました。きっと私だけではなく、同じ体験をしている人が他にも近くにいるであろうという考えでした。

4
最初はベルハを「クィアフェミニストカフェ」とラベルを付けることに躊躇していました。
周りにはLGBTQフレンドリーだと言い切っているお店や施設はほとんど見ません。
唯一あるのが近所の男女共同参画センターです。私個人のLGBTQの知り合いも近くにあまりいません。
初めて来店される方はきっと、喫茶店だと思って入って来られる方が多いと察していました。看板をよく読むと書いてある「クィアフェミニスト」という言葉に入りづらさを感じる方もいます。
それでもここはクィアたち、フェミニストたちの居場所なんだ！と断言することに意義を感じていますし、実際にそうしたことによって安心して入店できる、そんな場所ができたなんて嬉しい！という声をいただくようになりました。

5
先ほどお話ししたように、コーヒーやケーキを目的に入ってこられる地域の方もいます。
そういう方がうちの壁にあるクィア読書会のお知らせや本を見て、「クィアってどう読むの？」と聞いて下さったり、職場でSOGIの訓練を受けましたと教えてくれたりします。
もちろんLGBTQ当事者との繋がりを私はとっても嬉しく思うのですが、当事者ではないお客さんとのこのような会話にも希望を感じています。来店をきっかけにセクシャルマイノリティのことを考えたり話したりするきっかけになってくれることで、自分の住んでいるコミュニティのセクマイや社会の弱者に対しての知識や認知度が徐々に変えていけるのではないのかと思っています。なので、ベルハは「みんなのための」クィアフェミニストカフェなのです。そして「みんなのため」であるためには、トランス差別反対、性差別反対の他に、あらゆる世界の出来事にも敏感でいようと常に勉強しています。

6
ベルハは去年の10月からイスラエルによるパレスチナに対してのガザの虐殺に反対の声もあげています。クィアとして、女性として差別を受け、何かしら苦しみを味わってきたからこそ人種差別や人道に反する罪には積極的に反対し、無くすことを目的に動いていきたいと思っています。具体的な活動としては、”Free Palestine”（「パレスチナに自由を」）とプリントされた布パッチを販売し、売り上げ全てをガザ支援の寄付金にしています。去年は販売開始から3ヶ月で10万円の目標を達成し、国連パレスチナ難民救済事業機関(UNWRA)に寄付しました。現在もパレスチナの状況が悪化し続けているため、パッチの販売を続けています。

パッチを購入して下さった方はLGBTQ当事者やアライ、フェミニズムを支持している方が多く、ベルハのコンセプトに共感し、コミュニティーが少しずつですが成長するのが実感できました。

他にベルハを通して行っている活動は、クィア読書会の開催や、地域で活躍する若いパティシエさんに間借りでパフェのイベントを開催したりなど、LGBTQ当事者と川西コミュニティーの繋がりを両方増やしていくように動いています。
読書会はベルハ現地とオンライン参加も可能です。今月からはメンズリブ読書会も開催する予定です。

7
ベルハは新たな繋がりを作っていくことだけではなく、一番大切にしていることは、来店した方がありのままの自分として過ごせる空間を提供することです。
外見や第一印象で個人のアイデンティティがジャッジされることなく、コーヒーを片手にケーキを頬張りながら、（実際には店内は狭いですが）手足をうんと伸ばせる場所であることを目指しています。この日本に、世界に、ジェンダー規範や異性愛主義的な考えから逃れて自分と向き合ったり、のんびりしたり、夢を描いたりできるLGBTQ+の居場所が増えることを切実に願っています。

今年はベルハの2階に服やアクセサリーなどを販売するショップをオープンする予定です。
元々大学ではファッションデザインを勉強し、アパレル業界で仕事をしていました。ファッションやアートを通し、自己表現することでクィアとしてのアイデンティティを祝福することの喜びを感じることができました。ベルハでは1階のカフェ部分でゆっくり過ごす他に、2階のショップでLGBTQの方が女性らしさや男性らしさなどのステレオタイプに邪魔されず、ファッションを楽しむ時間を提供できればと思っています。

本日はお話にお付き合いいただき、ありがとうございます。
そして、セクマイ大会の主催者、関係者皆さまにもこの機会を作ってくださり、ありがとうございました。
以上です。